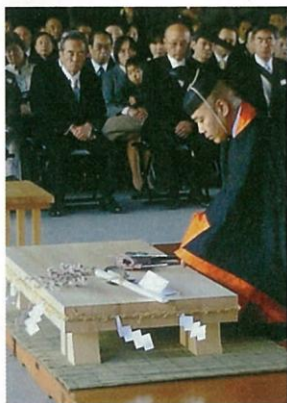




●日本最大の天然樹林である木曾谷。歴史の中で手厚く保護されてきた。



●明治神宮で行われる「包丁初め・まな板開き」の儀式では、木曾檜のまな板が使われている。

伊勢神宮の遷宮用材としても選ばれている木曾檜。建築材として良材で豊富な量を誇っていた木曾の檜は、江戸時代に築城や武家屋敷の建設、繰り返される火災の復興用材として伐採が進み、急速に荒廃してしまっ。そこで、木曾の山を管理していた尾張藩が取った政策が「禁木制度」である。伐採禁止とされたヒノキ、サワラ、アスナロ、コウヤマキ、ネズコは「木曾五木」と呼ばれ、「木一本、首一つ」と言われるほどの厳しい保護政策が取られた。木材を人間と同等に保護するこの政策は、木曾住民にとって苦しいものだったが、その成果により樹齢400年の天然木曾檜が守られ、美しい木曾の山が復活した。

特徴

木曾檜の特徴は、美しく細かな木目、豊かな香り、時を経るほど輝きを増す光沢とつやである。これは、傾斜が厳しく多雨多湿で寒冷な気候である木曾谷の自然環境によるところが大きい。厳しい環境のため、他の地域の檜が40年かかるところを70年かかって成長する木曾檜は、その分、細かな年輪と高い弾力性、くいの少ない性質を持つ。保護政策により残る樹齢400年を経過した檜は香りが豊かで、材木となつてからも40年50年とその香りと光沢が続く。

さらに木曾谷は針葉樹である木曾五木のほかに広葉樹など様々な種類の樹木が混在している。多様な樹木は豊かな景観を生み出すほか、互いに栄養を補い合うことで、より美しい木肌やつやを作ります。



●厳しい寒さに耐えて育った木曾檜。細かな年輪が特徴。



上●日本の伝統芸能とも深い関わりを持つ檜舞台。
下●表情豊かな木目が美しい檜の家具。



●「子どもたちが存分に木と触れ合う保育園をつくりたい」という園長の熱い思いで実現した、木の香り溢れる「風の谷保育園」(千葉県市川市)。枝付きの大黒柱、間伐材の芯の強さを利用したアーチ型の構造材など、木曾檜の魅力を活かしたデザインだ。

木曾檜

産地—長野県木曾谷

樹齢—250年~300年

用途—神社仏閣・構造材・化粧材・家具・建具・浴室まわり

協力—南木曾木材産業株式会社

宇宙にはばたく木曾檜



「キノコの販売市場は3800億円、木材は3600億円。元は木に生えていたキノコの販売高の方が、木材より多くなったんです」と語るのは、南木曾木材産業株式会社 (<http://www.nagiso.co.jp/>) 代表の柴原薫さん。林業従事者の減少や高齢化、森林の環境保護などの問題に積極的に取り組んでいる一人だ。

柴原さんの取り組みの一つにある木曾檜で作ったうちわ。木を身近に感じてもらえるようにと商品化したものだが、これが宇宙飛行

士の若田光一さんの目にとり、スペースシャトルの公式飛行記念品に認定。木曾檜が森林保護のシンボルとして宇宙に飛んだ。

地球から約3億キロ離れたところにも「Kisohinoki」と名付けられた小惑星がある。これは、アマチュア天文家の渡辺和郎さんが発見した小惑星。南木曾町を訪れた渡辺さんが、柴原さんの思いに賛同して命名を依頼。世界で初めての木の名前を持つ小惑星が誕生した。

檜のカンナくずから生まれたタワシ

捨てるだけだった檜のカンナくず。これを再利用して作られたタワシが生まれた。処分されるだけのカンナくずが有効

利用できるうえ、洗剤を使わずに汚れが落ち、最後は土に帰る環境にやさしいタワシだ。開発したのは同じく檜の産地である尾鷲地区のNPO法人。木曾檜でも特産品として取り入れるため、指導を受けながら作り手の養成を開始した。今後の地域の活性化と人材活用につながる取り組みとして期待されている。

